珠算の教え方が近代的になってきた

西洋数学の移入、明治維新による社会の近代化、小学校への珠算の導入にともなって、珠算教育法の近代化が必要になってきました。文部省は遠藤利貞にその撰定を命じ、アメリカやイギリスの算数の教科書をもとにその研究を行い、明治8年 (1875)「算顆術授業書」を作りました。これより後、この本の内容に基づいた珠算書が刊行されるようになり、塵劫記の形態を脱皮した現代のような珠算の教え方になりました。

五珠1個のそろばんが多くなる

明治の中頃までは、江戸時代から続いて五珠2個のそろばんを使用する人もいましたが、この後はほとんど五珠1個のそろばんが使用されるようになりました。

商除法に還元を使う方法が生まれた

この時代はほとんど帰除法が使われていて、商除法を採用することは一部の人々の間で話題になる程度でした。そのような中で竹貫登代多が著した「新撰珠算教科書」(明治20年 1887) の付録に商除法が書かれていて、その中に還元法が説明されています。